

教科	理科				
科目	生物基礎	単位数	2 単位	履修年次	1 年次～
使用教科書	新編生物基礎（東京書籍）				
副教材等	新課程版 スクエア最新図説生物（第一学習社）				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラムポリシー

グラデュエーションポリシー	卒業までにこのような資質・能力を育成する。 ①規則正しい生活習慣を確立し、前向きに社会生活に取り組む資質を育成する。 ②主体的に行動し、コミュニケーション能力が高い人間を育成する。 ③他者を尊重し、様々な課題を持つ人との関わりを大切に地域に貢献できる能力を育成する。 ④どのような困難にも立ち向かい、適応できる人間に育てる。
カリキュラムポリシー	資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う。 ①毎日学校に通うことを目標に、生活リズムを崩さない行動を促す。 ②日々の挨拶や、ルールやマナーを意識した学校生活を行う。 ③他者の立場を尊重し、思いやりや寛容の精神を育成するため、人権同和教育に力を入れる。（年3回以上はクラス単位での授業を行う） ④総合的な探究の時間において、1年次から系統的なキャリア教育を展開する。

2 学習の目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 指導の重点

①自然の事物・現象について、科学の基本的な概念や原理・法則を理解し、生物学的な知識が身につくようにする。 ②実験や観察などを通して科学を理解させる。
--

4 学習計画

学期	単元名	教材	学習内容(指導内容)	時間	評価方法
前期	第1章 生物の特徴	教科書 授業プリント	生物の多様性と共通性を細胞・組織・代謝の面から学ぶ。	12	取組状況 課題 提出物 定期考査
	第2章 遺伝子とその働き		遺伝現象と遺伝子について学ぶ。	10	
	第3章 体内環境と恒常性		動物の体内環境やそれを維持していく仕組み、さらに免疫について学ぶ。	13	
後期	第4章 植生の多様性と分布	教科書 授業プリント	地球上な様々な環境に適応している植生を多角的に学ぶ。	18	取組状況 課題 提出物 定期考査
	第5章 生態系とその保全		多様な生物とそれを取り巻く環境、さらに環境の保全についても学ぶ。	17	
計				70	(50分授業)

5 課題・提出物等

実験・実習のレポートや課題の提出。授業ノートの提出。課題プリントの提出。

6 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を理解しようとしている。また、観察・実験の基本操作を体験するとともに、それらを記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究することができる。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、現象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に決められた方法で表現できる。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。授業に前向きで自己を改善しようとしている。

7 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【評価】 考査の「知識・技能」の 得点率が70%以上・・・A 得点率が40%以上・・・B 得点率が40%未満・・・C	【評価】 考査の「思考・判断・表現」の 得点率が70%以上・・・A 得点率が40%以上・・・B 得点率が40%未満・・・C	【評価】 提出物等の「主体的に学習に取り組む態度」の 提出率が70%以上・・・A 提出率が40%以上・・・B 提出率が40%未満・・・C

8 担当者からの一言

生物や生物現象は、身近であると同時に未だにわからないことが多いものです。身近な自然に目を向け、関心を持って学習すればおもしろい「発見」があるでしょう。その発見を大切にしましょう。科学の基本をしっかり学べば有意義な人生の糧となるでしょう。